

現できる可能性が生じたと考えられる。

従来、運動生理学の分野で  $A$ ,  $B$ ,  $A+B$  あるいは運動開始および終了後の心拍変化様式と運動適性について議論されていた上に、 $K$  という数値を導入することに

よってより定量的評価へと前進できると思われる。

現在、症例数と parameter を増して検討を続行している。

## 小児心疾患者の管理、指導に関する研究

東京女子医大循環器小児科 高 尾 篤 良  
高 見 沢 邦 武  
清 水 秀 二  
高 橋 良 明  
柴 田 利 満

小児慢性疾患のうち心疾患児の健康管理と指導の資に供する目的で次の研究を行っている。

- 1) 小児の心臓体表面電位図を用いた術前、術後の変化と心内心電図、通常心電図との対比、ファロー四徴症心内修復後の右脚ブロックの検討
- 2) トレッドミル（ブルース変法）によるファロー四

徴症心内修復術後患児の運動負荷テスト（第一報）

- 3) 心疾患患児の心理学的特徴。a. 児の特徴、b. 母児関係、c. 問題点、d. 術後の変化
- 3) については、本学看護大学心理学教室、文教大学看護学教室との協同研究として発足したので、次年度にその結果を報告する。

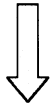
## 小児の体表面電位図

### (I) ファロー四徴症心内修復後の右脚ブロックと心内心電図および心表面心電図との比較

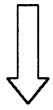
東京女子医大循環器小児科 高 橋 良 明  
高 見 沢 邦 武  
柴 田 利 満  
清 水 秀 二  
高 尾 篤 良

体表面電位図の Breakthrough 出現時間および領域と右室心尖部までの伝導時間（VRVA 時間）とを比較した。電極は 128 個。横軸 A~P 縦軸 1~8 とした。正常例（4 ヶ月~15 才）15 例平均 26 msec で D.G. 2.5 矩形内に Breakthrough は出現した。TOF 術前 11 例、

平均 29 msec で同矩形内に出現した。CRBBB で VRVA 時間が 30 msec 以上は平均 42.2 msec で同矩形の左外側にはずれ、30 msec 未満例は 27.3 msec で同矩形内に出現した。心表面心電図はこの差異によく対応した。



**検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用**  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



小児慢性疾患のうち心疾患児の健康管理と指導の資に供する目的で次の研究を行っている。

- 1)小児の心臓体表面電位図を用いた術前,術後の変化と心内心電図,通常心電図との対比,ファロー四徴症心内修復後の右脚ブロックの検討
  - 2)トレッドミル(ブルース変法)によるファロー四徴症心内修復術後患児の運動負荷テスト(第一報)
  - 3)心疾患患児の心理学的特徴。a.児の特徴,b.母児関係,c.問題点,d.術後の変化
- 3)については,本学看護大学心理学教室,文教大学看護学教室との協同研究として発足したので,次年度にその結果を報告する。